

Future

新プロジェクト ~カンボジア交流~

10/17 (月) に、新たなプロジェクトとして、4年生としては初の海外交流となる、カンボジア交流プロジェクトをスタートさせました。プロジェクト開始の授業は、何回やっても胃が痛くなる授業です。テーマ発表で子どもたちがどんな反応を示すのか…前日からワクワクと緊張が混ざったなんとも言えない気持ちになります。授業では、「プロジェクトは先生がテーマを決め、みんなで課題解決や制作に取り組むもの」とイメージ共有をした後、待ちに待ったテーマを発表しました。

「海外交流」という大きなミッションと、「カンボジア」という子どもたちにとってはあまり知らない国との出会いに大変驚いていました。テーマ発表を行った時に、プロジェクトの目的として伝えたのは下記の通りです。②③は実感できていましたが、①は現時点の子どもたちには少し難しいものでした。今後プロジェクト通して実感することも、このプロジェクトのゴールになります。

交流プロジェクトの目的

- ① グローバルな世界で共に生活する人々の状況を知り、**尊重する気持ち**をもつため
- ② 交流学習を通して、SOLANや国内の文化など、**自身の環境を振り返るとともに海外の文化や考え方を知る**ため
- ③ 発表ややり取りを通して**英語を活用する機会**とし、**学ぶ目的**を実感するため

10/21 (金) の授業では、今回のプロジェクトをコーディネートしてくださっている愛知福祉大学の影戸 誠先生にお越しいただき、カンボジアについて、また日本とカンボジアの関係性について教えていただきました。アンコールワットや王宮、また遺跡の保護に日本が関わっていること、カンボジアの人々は日本が好きであることなど、写真やデータを交えたスライドを使いながらとても分かりやすく教えてくださいました。子どもたちも真剣に話を聞き入り、時には驚きの声を上げながらメモを取っていました。

影戸先生の授業の後は、いよいよカンボジアの交流先であるアクノウワットクロコサル小学校とオンラインで交流をしました。時差にして2時間、直線距離で4117km離れた学校同士がオンラインで繋がり、カンボジアの子どもたちがモニターに映った瞬間、4年生の子どもたちは声をあげ、誰もが笑顔で大きく手を振っていました。SOLANからは長尾理事長、そして4年生児童を代表して2名の子たちが日英で挨拶をし、アクノウワットクロコサル小学校からも代表の先生が挨拶をしてくださいました。

その後子どもたち同士が質問をし合いました。影戸先生とカンボジアの学校のモニラ先生と話合った際、今回の交流で大事にしようと考えたことは、SOLANそしてアクノウワットクロコサル小学校の子どもたちの一人一人を交流に巻き込むことでした。そこで交流中に使用する言語は英語であるものの、そのやりとりをお互い母語に訳し、英語が苦手な児童にもしっかりと理解してもらったことでした。そのため、SOLAN側から質問をする時は日本語でもOKにしたのですが、質問をしたいと手を挙げ、前に出てきた子どもたちは積極的に英語で質問をしていました。

今回の交流は「出会い」が目的でしたが、これから子どもたちとアイディアを出し合い、「どうしたら充実した交流ができるのか」「どうしたら日本やSOLANのことを知ってもらえるのか」などについて考えていきたいと思えます。